

<p>横浜市小学校社会科研究会 6 学年部会</p> <p><i>研修会記録</i> 第 4 号</p>	<p>令和 2 年 1 2 月 2 日</p> <p>横浜市小学校教育研究会 会長 相沢 昭宏</p> <p>横浜市小学校社会科研究会 会長 梅田 比奈子</p> <p>同 学年部長 古橋 望</p>
---	---

<p>【提案日】 1 1 月 4 日 (水)</p>	<p>提案者 八木 浩司 先生 (南吉田小)</p> <hr/> <p>司 会 本間 宏志 先生 (末吉小)</p> <hr/> <p>記 録 福田 恭祐 先生 (永田小)</p>
<p>【会場】 横浜市立平沼小学校</p>	

研究会主題 「学んだことを社会や生活に生かす学習過程のあり方」

1 ミニ提案 6 学年部会 副部長 生方直樹先生

単元を見通す学習問題の成立過程と年表の活用

- 年表をじっくり見る
 - ・単元を見通す学習問題をつくる
- 単元の始めと終わりに着目
 - ・オリンピックの写真だけでなく、年表も一緒に提示すると、日本が戦後立ち直っただけでなく、どんな社会になったのかまで深めることができる。
- 見る視点を絞り着目する
 - ・見る視点を「武士の生活」に着目する子供を共通の土台にのせると年表の使い方が整う。

2 実践提案 6 学年部会 八木浩司先生

単元名 「武士による政治がはじまる～鎌倉幕府と九州での戦いを追って～」

単元を見通す学習問題：「どのように武士は力をつけていったのだろう。」

本気の学習問題：「どのようにして北条時宗は、14万人の大軍を退けたのだろう」

視点1 子どもの予想と見通しを大切にした単元づくり

手立て①前単元とのつながりを意識した単元構成

手立て②意図的な学習調整の場を設け、主体的に学習に取り組む態度の育成

【単元を見通す学習問題に立ち返り学習調整をする手立ては有効であったかどうか】

- 今、何をやっていて、何を考えているのかが分かる。
- どのように力をつけるのかという漠然とした単元だと、立ち返ったときに分からなくなる可能性もある。(武力なのか、権力なのか、政治力なのか)
- 力を「つけた」「つけていない」よりもその中身を見取っていくことが大切。

視点2 **本気の学習問題を追究し、社会的事象に意味に迫る授業づくり**

手立て①体験活動を根拠とし、子どもの思考を深めるための資料提示

【本気の学習問題に教師から「そうだよね。そういえば作らせたのは誰？」と

切り替えた言葉とタイミング】

- 体験学習があったことで普段発言がない児童も盛り上がる事ができた。
- 自分で体験することでイメージしやすく、別の角度から考える事ができた。
- 新学習指導要領的に時宗にフォーカスしているのであれば、単元の流れを違っていた方がよい。
- このタイミングで時宗に切り替えるには何か手立てが必要。

3 指導講評 鵜飼数夫校長先生（滝頭小学校）

- ・学習問題は答えを出すものではない。
- ・立ち返りがいくつもある中で本気になれる学習問題が出てくる。
- ・別の角度から時宗の業績が分かればよい。歴史は物語ではなく事実として捉える。
- ・必要な部分をしっかり取ってきた年表がよかった。そこに「福岡まで命令が届く」ということを加えて、時間的つながりと空間的つながりを意識する。

文責 呉屋 雄紀（師岡小学校）